鳥企第　５２９　号
平成２０年１０月１４日

国土交通省道路局長　　様

鳥羽市長　木　田　久主

今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平素は、本市の道路行政に格別のご高配を賜りまして厚く御礼申し上げます。
さて、平成２０年9月１９日付け、国道企第３７号にてご依頼のありましたことにつきまして、別添のとおり提出させていただきますので、よろしくお願いいたします。

「事務担当」
三重県鳥羽市企画財政課企画調整係　中村
TEL 0599-25-1101　FAX 0599-25-3111
E-mail　kikuya-n@city.toba.lg.jp

今後の道路行政についての意見・提案

様　式　①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

三重県　鳥羽市

現在、地方道路交付金事業により計画的に道路整備を実施していただいておりますが、本事業においては、費用便益（B/C）が基本にあり、人口減少と高齢化が急速に進む本市のような地方部においては地域格差が広がるものと考えます。

そのことによる格差は年々大きくなり、更に人口が減っていく要因のひとつになるのではと大変危惧しております。

また、地方道路交付金事業で整備していただく主要道路につながる生活道路の維持修繕等につきましては、自主財源により進めているところでありますが、財政状況も厳しく市民の期待に応えられていないのが現状であります。

そのほかに、本市は４つの有人離島を有しており、本市定住人口の２割の方が離島で生活しております。

坂手島では高齢化率が５０％を越えるなど、各離島ともに人口減少・高齢化の波が押し寄せてきており、定住人口の促進をはじめ、離島の道路の大半を占める市道の維持修繕・バリアフリー化などの課題が山積しております。

このような状況をご高察賜り、人口減少と高齢化が急速に進む地方部において、市道の維持修繕・バリアフリー化などへ、社会資本整備としての財源充当をご検討いただければ、全体の道路計画がより一層バランスのとれた計画化が進むと考えております。

今後の道路行政についての意見・提案

様　式　②　2-1

②－１　地域の現状と抱える課題

三重県　鳥羽市

○現状	○課題
①伊勢志摩連絡道路について 伊勢志摩連絡道路は、現在第６２回神宮式年遷宮に向けて工事が着実に進展しているところであり、本市に予定されているＩＣなどの名称については、伊勢市、志摩市、鳥羽市、南伊勢町、三重県で組織する「伊勢志摩連絡道路建設促進同盟会」において「白木ＩＣ」と「松下ＪＣＴ」と決定されております。 また、白木ＩＣから志摩市へ抜ける道路につきましては、予備路線として整備が予定されておりますが、漁業・観光業が盛んな相差町、国崎町、畔蛸町を代表とする南鳥羽地区へのアクセス道路などは計画されておりません。	①伊勢志摩連絡道路について ＩＣは、その地域の玄関ともなる重要なものであり、観光客にとっては、その名称を頼りながら伊勢鳥羽志摩地域に来ていただくものと考えます。 このことから本市を含む同盟会で決定されたものではありますが、「白木ＩＣ」、「松下ＪＣＴ」には「鳥羽」の地名が入っておらず、鳥羽にお越しいただく方にとってはわかりづらいと考えます。 また、白木ＩＣが本市の最南端に位置することから、住民の利用者についても少ないものと推測されるため、当該ＩＣから市内部へ誘導する道路ネットワークの整備が必要であると考えます。 特にこのＩＣに近い南鳥羽地区は、雄大な太平洋の景観や、豊かな海産物を活かし、９９軒ある宿泊施設では約６，０００人の収容能力を擁しております。 しかしながら当地区への誘客ルートは、パールロードと県道鳥羽磯部線のみであります。パールロードについては、曲折が多く時間を要するため、大半の利用者は国道 167 号線に接続する県道鳥羽磯部線を観光道路並びに生活道路として活用しておりますが、大型バスとの対向時などは非常に危険であり、狭隘な部分での接触事故が多発しております。
②児童・生徒・高齢者にとって安全・安心な道路整備について 国道１６７号をはじめとする幹線道路では、ガードレールや、歩道がない箇所が多数存在しており、通学路や歩道として利用する児童・生徒・高齢者の安全・安心が確保されておりません。	②児童・生徒・高齢者にとって安全・安心な道路整備について 近年、全国的に悪質な脇見運転等による死亡事故が多発している現状の中で、児童・生徒の保護者や高齢者等からも早急な整備を望む要望がされており、ガードレールや歩道の整備は歩行者にとって喫緊の課題であります。

今後の道路行政についての意見・提案

様　式　②　2-2

②－１　地域の現状と抱える課題

三重県　鳥羽市

○現状	○課題
③答志島への離島架橋整備について 答志島は、本市の４つの有人離島の中で１番大きな島であり、答志・和具・桃取地区の３集落では、約３，０００人の島民が水産業を主産業として生活を営んでおります。 しかしながら本土と答志島を結ぶ交通手段は市営定期船のみであります。	③答志島への離島架橋整備について 荒天時には市営定期船の欠航に加え、民間漁船も航行不能となり、約３，０００人の島民は完全に孤立してしまいます。 また、救急患者の搬送には海上タクシーや民間漁船をチャーターするしかなく、当然荒天時には搬送することすら出来ません。
④国道１６７号から県道阿児磯部鳥羽線間の災害避難用バイパス整備 国道１６７号線が通る岩倉町は、本市の山間部に位置し、緑豊かな農山村地域であるとともにこれまで農業を中心とする町として栄えてきました。 また、同国道に接続する県道阿児磯部鳥羽線は安楽島町へ延びており、同町は入り組んだ安楽島湾において、牡蠣養殖やアオサ養殖、ワカメ養殖、黒のり養殖、海女漁などが営まれております。 このような中、平成１５年１２月に「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されたことを背景に、海浜部で生活を営む安楽島町及び隣接する浦村町住民は、災害時における避難訓練をはじめ、ハザードマップを作成するなど、防災意識が高まっております。	④国道１６７号から県道阿児磯部鳥羽線間の災害避難用バイパス整備 県道阿児磯部鳥羽線は、安楽島町及び浦村町周辺の生活道路であり、海浜部唯一の道路であるため、道路災害が発生した際には、交通が遮断されることとなり、住民が孤立することになります。

今後の道路行政についての意見・提案

様　式　③

②－２　地域の目指すべき将来像

三重県　鳥羽市

本市は、リアス式海岸線をはじめとする豊かな自然景観に恵まれ、伊勢志摩国立公園の海の玄関口として発展してまいりましたが、観光客等のニーズの多様化等の要因により、平成３年度の年間７００万人の観光客入込数をピークに年々減少傾向をたどっている状況にあります。

このような状況の中、魅力ある観光地として新たな発展を遂げるためには、自然景観の保全や、鳥羽特有の自然を活かした体験滞在観光など、新たなニーズに対応したメニューづくりとともに、伊勢鳥羽志摩地域内外における道路網の計画的な整備が不可欠であります。

伊勢神宮式年遷宮にあわせ、整備が進められている伊勢志摩連絡道路につきましては、南鳥羽地区への観光振興にとって最大のチャンスととらえ、ＩＣ名等は観光客にとってわかりやすいよう「鳥羽」の名称を入れていただき、白木ＩＣから南鳥羽地区へのアクセス道路を整備していただくことにより、パールロードを利用したループ化が実現し、観光客をスムーズに太平洋の雄大な景観へ誘導できるとものと考えます。

さらに、この道路は南鳥羽地区住民の生活道路も兼ねており、市外総合病院への救急搬送や通勤面でも格段に利便性が向上し、伊勢志摩連絡道路の利用者増につながると考えます。

次に、安心・安全なまちづくりについては、行政が果たすべき重要な責務であり、災害時の非難経路確保や、通学路における危険箇所の改善とともに、高齢化が急速に進んでいる本市においては、歩道等におけるバリアフリー化についても、整備を促進していく必要があります。

そこで、安全・安心を確保するため、災害避難用バイパスの整備の検討や、国道１６７号をはじめ、幹線道路における歩道等の危険性を把握いただき、子ども達や高齢者をはじめ、地域住民が安心して日常生活を営める状況を早急に確保する方策を見出していただきたいと考えております。

また、当市は、４つの有人離島を有し、市人口の約２割が離島に居住しております。平成１５年に策定された三重県離島振興計画においても、答志島架橋の必要性について掲載していただき、また、地元においても３町合同の答志島架橋建設促進協議会が設立されました。

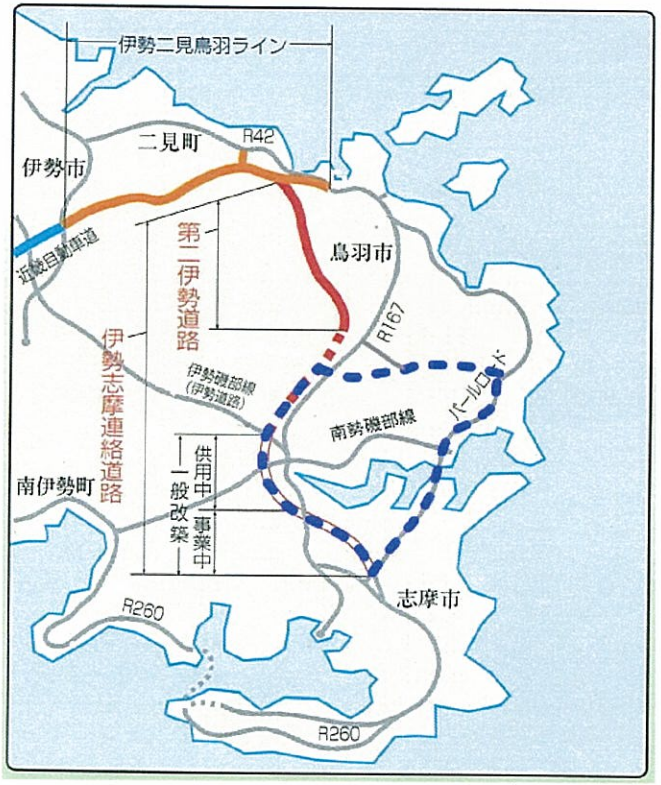
離島架橋は、通勤・通学などの日常生活のみならず、救急患者を１秒でも早く本土医療機関に搬送し、大切な命を繋ぐという面や、水産業の盛んな答志島においては、鮮度が命である海産物の流通面においても多大な波及効果を生み出すものと考えており、架橋への離島住民の期待は、きわめて大きいものがあります。本市としても架橋実現を目指し、促進協議会への支援を行っているところであります。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様　式　④

三重県　鳥羽市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
伊勢志摩連絡道路の県道鳥羽磯部線へのアクセス	伊勢志摩連絡道路の白木インターから南鳥羽地域に向かう県道鳥羽磯部線へのアクセス道路の整備  パールロードを利用したループ化	南鳥羽へのアクセス道路を整備することにより、パールロードを利用したループ化が実現し、観光客をスムーズに太平洋の雄大な景観へ誘導できます。 志摩市側からも、内陸部から訪れた観光客が、海側の景観を楽しみながらパールロードを利用し、白木ＩＣから帰るなど、ループを利用した広域連携での観光周遊道路として利用者増が見込まれると考えます。 また、約２，５００人が暮らす南鳥羽地域の生活道路としても、通勤や救急搬送面での利便性が向上し、伊勢志摩連絡道路の利用者増にもつながると考えます。	